

各務小だより

各務小学校

校 報 10月号

令和4年9月30日



前期のしめくくり 子どもたちの成長にはげましを

校 長 松原 里佳

少しずつ、気持ちの良い秋色に包まれるようになり、過ごしやすい季節がはじまります。4月のスタートから、子どもたちは心身ともに成長をしてきました。1年生の子どもたちが、毎日、校長室に、音読で練習してきた物語を暗記し、発表に来てくれます。ずいぶん、大きな声ではっきりと話をするできるようになりました。きっと、何回も何回も練習をしたのでしょう。一生懸命に暗記発表をする姿がほほえましく、感心してしまいます。4年生の子は、「自然の家研修の取組（廊下歩行と時間）を、今も続けている。」6年生の子は、「修学旅行で行く五重の塔を調べてみる。」と話してくれます。前期の学習や活動をしめくくり、後期の学習や活動に引き継いでいく時期です。各学級の学級目標に立ち返り、学級の仲間と、成果や課題を確かめていきます。

さて、10月7日、前期終業式の日、担任より子どもたち一人一人に「こどものすがた」を手渡します。一般的には「通信簿（通知表）」と呼ばれているものです。お子さん一人一人の学びに対する評価です。「身に付けるべき学習目標に対してどれだけ到達しているかを捉えて、それを次にどのように活かしていけばよいかを考える」ためのものとして作成しています。現在の実態（できたかできていないか）にとらわれるのではなく、「いかにその後の学習につなげるか」を大切に考えています。受け取った「こどものすがた」をそのままにしないで、評価から、日々の学習の様子に即して、お子さんを認め、励ましていただけたら幸いです。近年「褒めて伸ばす」事の重要性をよく耳にします。周りの大人が子どもの頑張りや良さを認めることで、子どもの中に自己肯定感が育まれます。けれども、「褒めること」はなかなか難しいです。「褒める」の中には、「よくできた。上手にできた。」という、「評価」や「判定」に近いニュアンスが含まれがちだからです。「評価」という言葉に、大人が冷静になれず、つい、他人の評価に、自分の評価も加えてしまいがちだからです。「何かができないと褒めてもらえない」と感じることは、とてもつらく、悲しいことです。褒めるときには、「具体的に褒める」「できるようになった過程を認める」「できたことの喜びを分かち合う」「評価に対しての気持ちを聞いてみる」「次の目標を考える」等、お子さんが、自分で自分の学びを振り返ることができるような言葉かけをしていただきたいと思います。学習だけではなく、係や委員会の活動、出席日数等、話題は

つきません。「こどものすがた」をきっかけに、「子どもを認め、ほめ、愛情をもって伸ばす」ということを、ご家庭と学校とで同じ歩調で進めていきたいと考えています。よろしくお祈りします。

